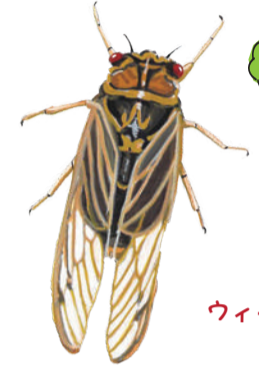


# 高縄山の自然をみつめる

## 駐車場から展望台まで



**フジミドリシジミ**  
日本産ミドリシジミの仲間ではもっとも羽が青色に近く、その色は「フジミブルー」とも呼ばれる。幼虫の食樹はブナやイヌブナ。美しいチョウだが、高いブナ林の上を飛ぶので、運よく地上で休んでいる時以外は観察することがかなり難しい。



**アハエゾゼミ**  
標高の高い山地に生息する大型の美しいセミ。全長は約60mm。成虫は7月中旬～9月中旬にかけてブナ林などの広葉樹林で「ウィー…」という連続音で鳴く。体色は黒く、頭胸部の模様や脚、羽の脈などが鮮やかなオレンジ色。一通り鳴き終わると飛んで移動する「鳴き移り」を頻繁に行う。



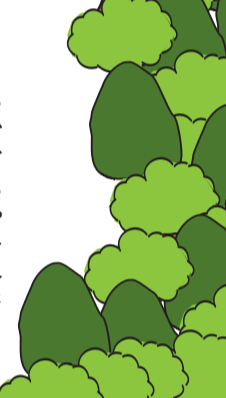
**オコムラサキ**  
日本の国蝶として有名。成虫の前羽の長さは50～55mmでタテハチョウ科の中では最大級。オスは羽に青紫色の光沢があり美しいが、時には小鳥やスズメバチを追い払うほどの気が強い。成虫は6月～7月に発生し、コナラなど落葉樹の樹液に集まったり、クリなどの花で吸蜜する。幼虫の食樹はエノキやエゾエノキで、冬は落ち葉の中で越冬する。



**テングチョウ**  
雑木林の周辺に生息する。成虫の前羽の長さは20～30mmほど。羽は茶色で、表にオレンジ色の斑紋（はんもん）がある。和名は頭部の前に伸びた突起を天狗（てんぐ）の鼻に例えたもの。成虫のまま越冬し春と秋に活動する。真冬でも天気の良い日には稀に日光浴をしている姿を見ることがある。幼虫の食樹はエノキ。



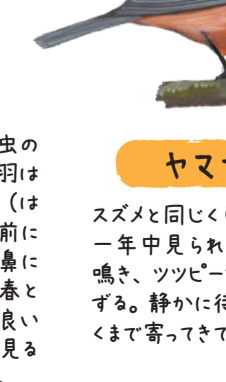
**ミノサザイ**  
全長10.5cmのとても小さな鳥。倒木の上などでとても美しい声でさえずる。高縄山では境内のあたりで声を聞くことができる。運が良ければ姿が見られるかも。



**キビタキ**  
スズメよりやや小さい。夏に繁殖のため日本にやってくる鳥。美しい声でさえずる。メスは褐色で地味な色をしている。



**オオルリ**  
夏に繁殖のため日本にやってくる鳥。全体が瑠璃色で声もたいへん美しい。オスは木のてっぺんでさえずることが多いので見つけやすい。



**ヒガラ**  
スズメより小さい。針葉樹林も好み、ブナだけでなくスギ林でも見られる。ツピンツピンツピンとちょっと早口でさえずる。



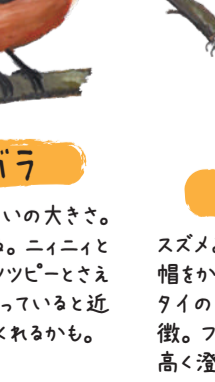
**ヤマガラ**  
スズメと同じくらいの大きさ。一年中見られる。ニニニと鳴き、ツツピーツツピーとさえずる。静かに待っていると近くまで寄ってきてくれるかも。



**コガラ**  
スズメより小さい。黒いベレー帽をかぶったような頭と蝶ネクタイのような胸の模様が特徴。フィチーフィチーフィチーと高く澄んだ声でさえずる。



**カケス**  
ブドウ褐色の体色で肩に美しい青色の羽がある。どんぐりなどの木の実に隠れて蓄える習性がある。ジェーと濁った声で鳴くが、他の鳥の声をまねすることもある。



**コラム**  
昔、ブナは、材が腐りやすく利用価値が無いことから、「木で無い木だ」として漢字で「樵」と書かれたこともある。しかし今ではブナ林は動植物の生息環境として、また森林土壌の高い保水性から「緑のダム」として高い価値が認められている。高縄山のブナ林は、標高1,000m以下に発達していること、他のブナ林では普通に見られるササ類が欠けていることが特徴。松山市中心部から車で1時間ほどで到着することも高縄山のブナ林の魅力である。

**ヒトリシズカ (一人静)**  
草丈20cmほどのセンリョウ科の多年草。3月～5月に茎の先に1本の花茎を伸ばして、白色で試験管ブラシのような花をつける。和名は可憐（かれん）な花を静御前（しずかごぜん）に例えたもの。近縁種のフタリシズカは、花茎が2本以上で花期もひと月ほど遅い。

**アワコバイモ (阿波小貝母)**  
林内に生える小さなユリ科の多年草で、クロユリと同じ仲間。葉は5枚。春、茎の先から下向きに角ばった釣鐘（つりがね）型の花をつけ、6枚の花びらには淡紫褐色の網目模様がある。徳島県の高越山（こうつさん）で発見された四国の固有種。松山市・愛媛県・環境省のレッドデータブックに絶滅危惧種として掲載されている。愛媛県では条例で採取が禁止されている。

**エイザンスミシ (叡山堇)**  
草丈は15cmほどのスミレ科の多年草。初夏に淡紅色の花をつけるが花の色には濃淡の変化が大きい。スミレで葉が細かく裂ける種類は珍しい。日本固有種で、和名は比叡山（ひいざん）に生えるスミレの意味。

**シコクハッコソウ (四国鞆鼓草)**  
草丈は20cmほどのサクランソウ科の多年草。初夏にピンク色の花をつける。四国の固有種で、松山市・愛媛県・環境省のレッドデータブックに絶滅危惧種として掲載されている。愛媛県では条例で採取が禁止されている。

**ツクバネソウ (衝羽根草)**  
落葉広葉樹林内に生えるユリ科の多年草。茎の先に4枚の葉が輪生することが特徴。4月～5月、茎の先に1個の花をつける。花には花びらはなく、4枚の萼（かく）が目立つ。和名は葉と黒い実を羽根つきの羽根に例えたもの。

**ヤマシャクヤク (山芍薬)**  
西日本のブナ林域の林内に生える多年草で、ボタンやシャクヤクの仲間。葉は細かく裂け、両面無毛で柔らかい。5月頃、茎の先に白色の花を1個つける。秋にはバナナに似た細長い果実が熟す。

**ブナ (山毛櫨)**  
冷温帯林を代表する高木落葉樹で、四国では標高1,000m以上に発達する。樹皮は灰白色で細かく、地衣やコケがついて独特の斑紋が見られる。初夏に葉が開く頃、高い枝先に雄花・雌花が咲くがあまり目立たない。秋には痩せた三角形のどんぐりを落とすが、これは生のまま食べることができる。

**サラシナショウマ (晒菜升麻)**  
落葉広葉樹林内に生えるキンポウゲ科の多年草。9～11月頃に茎の先に、白いブラシのような花をつけ暗い林内でもよく目立つ。若葉を茹（ゆ）でて水にさらして食べることから晒菜（さらしな）という。根は升麻（しょうま）といい漢方薬となる。

**コラム**  
昔、ブナは、材が腐りやすく利用価値が無いことから、「木で無い木だ」として漢字で「樵」と書かれたこともある。しかし今ではブナ林は動植物の生息環境として、また森林土壌の高い保水性から「緑のダム」として高い価値が認められている。高縄山のブナ林は、標高1,000m以下に発達していること、他のブナ林では普通に見られるササ類が欠けていることが特徴。松山市中心部から車で1時間ほどで到着することも高縄山のブナ林の魅力である。